

1 市場動向の概要と対策

(1) 野菜

全体の動向と見通し

4月と5月の実績

(東京都中央卸売市場)

区分 品目	4月の取扱実績(計)				5月の旬別取扱実績							
	入荷量		前年比		上旬				中旬			
	(t)	(%)	(円/kg)	(%)	入荷量(t)	前年比(%)	単価(円/kg)	前年比(%)	入荷量(t)	前年比(%)	単価(円/kg)	前年比(%)
総数	145,615	98	195	100	3,742	99	197	112	50,366	82	176	111
だいこん	14,934	101	75	107	280	105	91	145	3,878	83	57	112
にんじん	7,445	89	158	100	277	99	173	123	3,067	79	113	109
はくさい	6,559	95	90	285	112	72	89	370	2,144	81	55	217
キャベツ類	17,479	95	98	110	504	96	80	143	5,974	90	43	92
ほうれん草	1,526	87	436	124	44	78	414	129	537	93	369	102
ねぎ	4,193	102	189	94	105	105	248	92	1,252	89	206	94
レタス類	7,970	113	124	76	178	84	137	106	2,299	79	128	154
きゅうり	7,750	101	197	97	279	102	203	108	2,886	86	155	118
なす	5,029	88	268	92	120	65	364	136	1,797	74	282	118
トマト	7,598	89	339	118	186	84	306	131	3,785	85	220	120
ミニトマト	948	80	562	128	459	100	527	130	508	85	376	127
にら	994	93	254	92	326	101	265	91	349	86	208	96
えだまめ	155	103	556	86	71	100	729	80	91	92	863	100
生しいたけ	941	96	603	109	21	84	678	135	194	68	774	118
なめこ	225	96	404	94	81	95	473	109	86	79	429	114
たらの芽	27	125	4,128	80	5	128	4,288	96	3	69	2,680	121
食用ぎく	12	97	1,705	95	8	119	1,458	72	6	112	1,049	76

概況

5月の野菜類は、前年の入荷急増による低迷価格に比較して、110%程度のキロ当たり180～200円と安定価格で推移した。これは、4月下旬から5月はじめにかけての低温の影響により、大型連休明け後の急激な入荷増がなく、西南暖地から関東への移行がスムーズに行われたためである。とくに、大型野菜のはくさい、レタス、だいこん、にんじん、たまねぎと果菜類のトマト、きゅうり、なすなども前年の価格を1～2割程度上回った。

4月23日に発動された、ねぎとしいたけのセーフガード暫定措置施行後の価格動向は、施行前に比較して、20～50%の値上がりとなったが、市場側では発動の影響というよりも、野菜全体の堅調ムードと並行したものとして平静である。

景気の横ばい状況が続くなかで、5月後半に夏日の蒸し暑さがくると、葉もの類の傷みや果菜類の軟化玉懸念などで、値下がり場面もみられ、相変わらず厳しい取引となった。

(6月の見通し)

(東京都中央卸売市場)

品目	区分	入荷量 (t)			キロ当たり単価 (円)			山形県産前年6月実績	
		前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年入荷量	前年占有率 (%)
だいこん		9,736	105	10,529	109	85	90	31	0.3
にんじん		8,770	100	8,985	89	110	148	-	-
はくさい		7,060	95	6,692	59	105	72	-	-
キャベツ類		15,487	98	16,218	52	115	71	-	-
ほうれん草		1,448	105	1,585	560	95	541	1	-
ねぎ		3,917	105	4,099	362	90	324	3	0.1
レタス類		8,131	98	7,989	116	115	144	-	-
きゅうり		9,013	100	9,134	204	100	203	295	3.3
なす		4,601	105	5,209	308	102	314	-	-
トマト		11,546	95	10,876	181	103	224	311	2.7
ミニトマト		1,057	100	1,042	402	100	449	-	-
にら		929	100	772	298	95	304	111	11.9
えだまめ		1,019	103	1,015	736	102	881	-	-
生しいたけ		587	100	596	900	105	1,004	5	0.8
食用菊		14	107	17	1,305	100	1,271	7	49.5

概況

6月の主要品目は、たまねぎ、きゃべつ、ばれいしょと、トマト、きゅうりなどの果菜類となる。季節ものとしては、そらまめ、えだまめのほか山菜類の出回りがつづく。主力産地は、関東平坦地から、東北 高原ものへの移行期となって、いよいよ「おいしい山形」のシーズン来る。

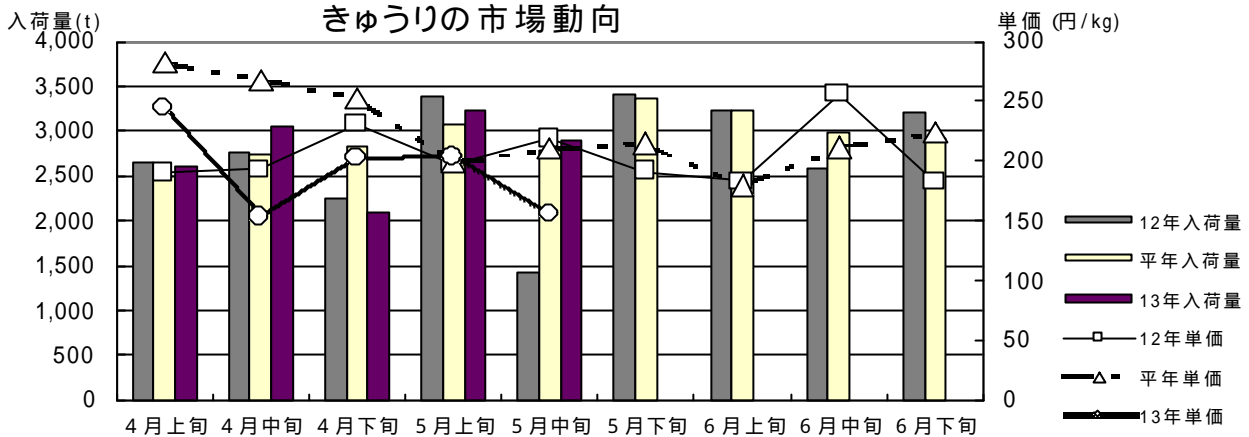
結球野菜類は小ぶり、果菜類は平年並で順調な生育。土もの類は作付面積の減少と肥大不足等バラツキがあるが、全体的には昨年並の入荷が予想され、キロ当たり価格は200円程度で平年並に落ちつきそうだ。

しかし、梅雨入りとともに、野菜では品傷みのシーズンとなる。東京地方の6月の平均気温の平年値は、21.8 (5月は18)、降水量は165mm (5月は128mm)と一層蒸し暑くなる。今年の長期予報は、「これらの数字をやや上回る見込み」であることから、やはり品傷みなど除去等、品質管理に徹底を期してほしい。

きゅうり

(1) 5月の販売状況

上旬	入荷量： 3,222 t (前年比 95)	価格： 203円/ kg (前年比 103)
中旬	入荷量： 2,886 t (前年比 205)	価格： 155円/ kg (前年比 71)



総入荷量の約40%を占める埼玉産は、後半を中心に前年の入荷を割り込んで、ついで25%を占める群馬産も同様に入荷減で、月全体の入荷量は前年比5%減となった。天候不順と低温障害の影響が要因とされているが、連休明けの入荷量は開市の関係で多くなり、需要も旺盛であった。この時期の東北産は人気があり、関東産より1～2割程度高い価格で取引された。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

(2) 6月の見通し **シャリ感！ 新鮮さで勝負！**

入荷量 9,013 t 前年比 100% 平年比 99%	価格 204円/ kg 前年比 100% 平年比 101%	旬別相場予想推移 上旬 → 中旬 → 下旬 →
--	---	---

関東産が主力の入荷となるが、東北産も出荷期を迎え漸増する。各地とも生育・着果は概ね順調で、前年並の入荷となろう。

市況は、梅雨シーズンだけに小波乱も予想されるものの、キロ当たり200円台を維持できそう。

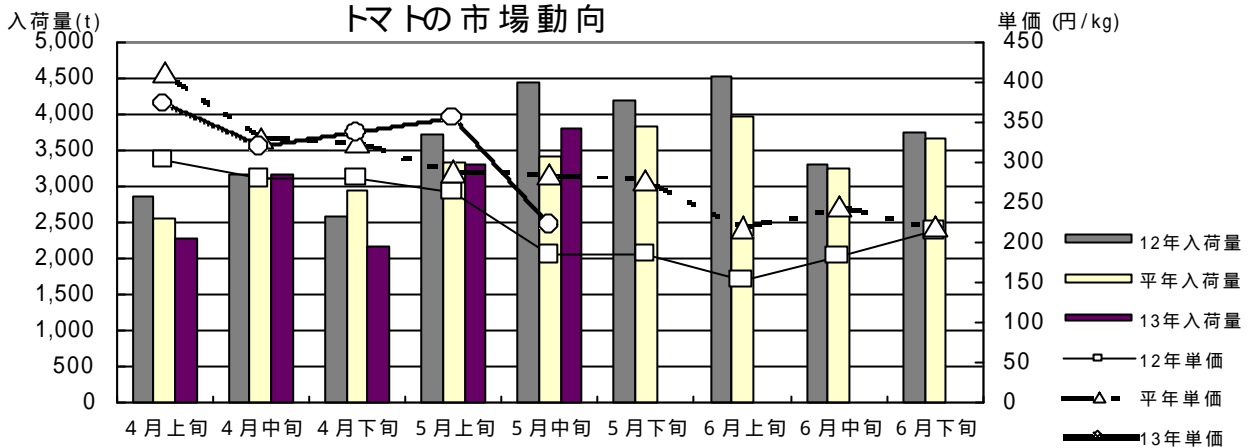
ただ、この時期は作型や産地の移行期にもあたるため価格差が拡大する。当日収穫、当日出荷に心がけ鮮度を大切にしたい。

主な生産県の入荷見込み (6月)				作柄概況
県名	前年 入荷量 (t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込 (%)	
埼玉県	2,672	30%	103%	5月中旬の高温等で、なり疲れ現象も見られる。収量は多いと見込まれ、とくに問題はない。入荷量は平年より多い見込み。
福島県	1,628	18%	100%	生育がやや遅れていたが、5月末現在回復。ハウス無加温は6月いっぱい入荷。露地は6月下旬より入荷はじまる。全般に生育順調。
群馬県	1,430	16%	100%	なり疲れ等から樹勢の低下に加え、べと病、うどんこ病の発生も散見される。また、例年に比べ下位等級品の発生比率が高い。今後の入荷は、樹勢も弱く、不安定であるが、一部安値から切り上げが早まる模様。入荷は、少なかった前年並の見込み。

トマト

(1) 5月の販売状況

上旬	入荷量： 3,305 t (前年比 89)	価格： 355円/ kg (前年比 136)
中旬	入荷量： 3,785 t (前年比 85)	価格： 220円/ kg (前年比 120)



昨年5月の入荷量は、過去数年のうちで最も多い入荷を記録し、販売単価はキロ当たり207円と低水準であった。本年は前年比15%減の入荷量、平年並の入荷であった。販売価格も前年比20~30%高いが、平年並と言える。

桃太郎系を中心に、この時期の人気商材であるが、作型や産地により価格差が大きくなりやすく、L級で4kgケース当たり、同じ市場でも600円~1,000円となっている。品質のよい東北産への期待が強まっている。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

(2) 6月の見通し

——— 東北産に期待感！ 品質の吟味きっちり ———

入荷量
11,546 t
前年比 100%
平年比 106%

価格
186円/ kg
前年比 103%
平年比 83%

旬別相場予想推移	
上旬	↗
中旬	→
下旬	↘

関東産の最盛期が続くなか、東北からの入荷も多くなる。関東各地の作柄は概ね良好であることから、入荷量は多かった前年より少なめとなるが、後半の値下がりを見込めると、前年並の価格に落ちつきそう。

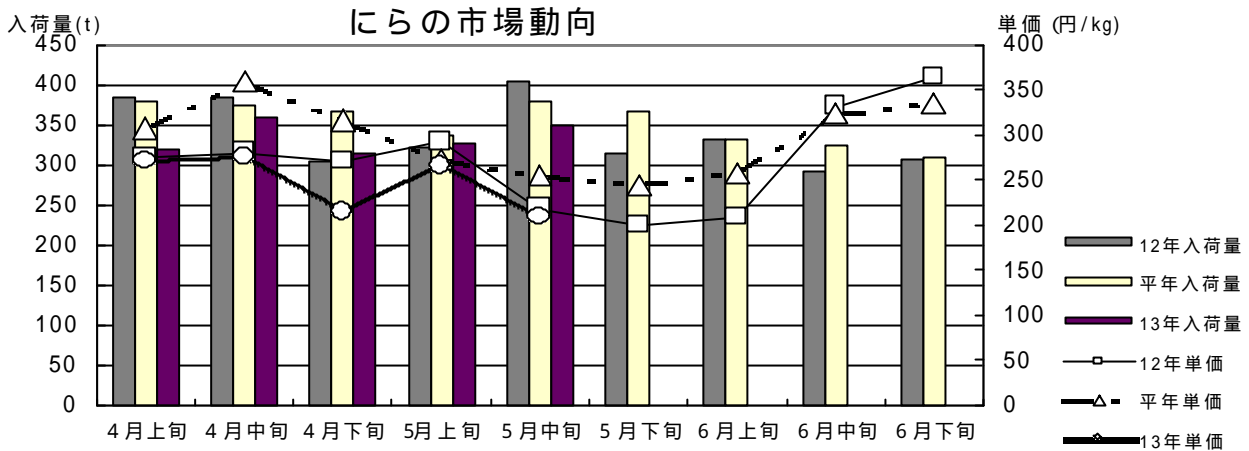
作型や産地、階級などにより価格差が大きくなるので、L級に比重を置いて、完熟の適熟出荷。過熟と軟化玉などにはとくに注意したい。

主な生産県の入荷見込み(6月)				作柄概況
県名	前年 入荷量(t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込(%)	
千葉県	2,513	22%	99%	生育は順調に推移しており、肥大も良好。病害虫の発生はなく、作柄良好。入荷量は平年並。
栃木県	2,283	20%	98%	生育良好。5月末現在、6~7段果房収穫中。果実肥大良好だが、一部軟化玉の発生が見られる。
茨城県	1,830	16%	98%	加温は8段。無加温は1~2段目収穫中。生育順調だが、一部乱形果の発生が見られる。多かった前年をわづかに下回る入荷となる見込み。

に ら

(1) 5月の販売状況

上旬	入荷量：	326 t (前年比 101)	価格：	265円/ kg (前年比 91)
中旬	入荷量：	349 t (前年比 86)	価格：	208円/ kg (前年比 95)



5月のにらは、栃木、茨城、千葉が主力で、3県で70%以上を占める。本年は前年並の入荷量となったものの、100g1束当たりの20～25円の市況は小安い感じ。

5月中旬を中心とする夏日の連続で一時的な需要減があり、苦戦となった。にらは長期出荷体系をとる品目だけにトータルな戦略が求められる。

おいしさ、やわらかさ、グリーンと鮮度感が大切で、計画的出荷予告情報の徹底が必要。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

(2) 6月の見通し

おいしさ、やわらかさ、グリーン、鮮度

入荷量	価格
929 t	283円/ kg
前年比 100%	前年比 95%
平年比 96%	平年比 98%

5月に引き続き関東産が中心となり、栃木産36%、茨城産25%のシェア。続いて山形産が12%のシェアで、6月後半から目立ってくる。

6月の入荷量は、各産地の生育が概ね順調であるが、主産県では昨年比2%程度の減。山形産はこれから7月まで「1番刈り」として人気があるが、品傷み等に注意して7月後半まで人気を維持したいものだ。また、地方転送が少なくなることで、計画的な安定供給で固定客づくりを強化したい。

選別には、太さ、色、長さを揃え、傷みに注意したい。

主な生産県の入荷見込み (6月)				作柄概況
県名	前年入荷量 (t)	前年シェア (%)	前年比入荷見込 (%)	
栃木県	333	36%	98%	生育は概ね順調である。品質は、目立った病害虫の発生が見られず、夏にらに移行することから概ね良好である。
茨城県	235	25%	98%	根株の充実不足が見られたが回復。平年並の出荷は見込めそう